様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　21　年　5　月　31　日現在

研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：2006～2008
課題番号：１８７３０２１５
研究課題名（和文）　銀行間競争とリレーションシップ・バンキングに関する計量分析

研究課題名（英文）　Empirical Studies of Interbank Competition and Relationship Banking

研究代表者
小倉　義明（OGURA YOSHIAKI）
立命館大学・経営学部・准教授
研究者番号：70423043

研究成果の概要：中小企業向けの銀行取引関係に関するアンケート調査の個票データに，各地域の融資市場の競争度を接続したデータを用いて統計的分析を行ったところ，以下のことが明らかとなった．
(1) 融資市場の競争増加は各金融機関の企業固有の信用情報収集意欲を阻害する傾向がある．
(2) このような融資市場の競争増加に伴う企業と銀行の関係の希薄化は，新規企業の融資利用可能性を低下させる傾向がある．
(3) 金融機関の合併は，競争を低下させる一方で組織の拡大をもたらすため，上述の情報収集を低下させる傾向がある．

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
18 年度	1,800,000	0	1,800,000
19 年度	900,000	0	900,000
20 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総　計	3,400,000	210,000	3,610,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：経済学　財政学・金融論
キーワード：銀行論

１．研究開始当初の背景

2000 年代に入って，銀行間の競争度と，リレーションシップバンキング，すなわち銀行と企業の間の長期取引関係あるいはそれに伴う情報生産，の関係に関する多くの理論的知見が主に国外の研究者によって蓄積されてきた．その一方で，資金調達を銀行に依存せざるを得ない未上場の中小企業の銀行取引の実態に関するデータの不足のために，それらの理論的知見の実証はまだ手つかずの状況であった．しかし，2001 年以降中小企業庁により中小企業金融に関する実態調査が継続的に行われ，その個票データが利用可能になるに至り，ようやく実証することが可能になった．これを受けて本研究を開始するに至った．

学会への貢献のみならず，2003 年 3 月に始まった「リレーションシップバンキングの機能強化に関するアクションプログラム」に代

表される金融庁による地域金融行政の意義・効果を予測・評価する上で有用な情報を提供することで社会的な貢献をすることも目指した.

２．研究の目的

銀行部門の競争度が，個別銀行のリレーションシップバンキングによる情報生産の誘因を介して，中小企業向け融資市場の金融仲介機能・安定性に与える影響を実証的に明らかにし，参入・出店規制など競争制限的銀行規制に関する産業政策的あるいはマクロ経済政策的含意を得ることを目的としている.

リレーションシップバンキングとは「継続的取引関係を通して顧客に関する情報を積極的に入手・活用する銀行行動」のことである．顧客情報の中でも，経営者の能力，独自技術の発展可能性など客観的数量化が困難で，取引先金融機関のみが排他的に入手できるような情報は，それを保持する銀行に情報優位による超過利潤を生むことから，銀行による情報生産，ローンプライシング，融資提供可能性に様々な影響を与えることが多くの理論モデルにより主張されている.

そのような排他的な情報生産を伴うリレーションシップバンキングの実施が可能な状況にある銀行は，情報優位がもたらす将来の超過利潤を狙って，取引関係をライバルに先駆けて確立するべく，そうではない銀行よりも新規参入企業に対する融資に積極であり，結果として，このような企業の融資利用可能性の向上，借入金利の低下がもたらされることが理論的に知られている.

また，融資市場の競争度とリレーションシップバンキングの関係に関しては，融資競争が厳しい場合，将来顧客を奪われる可能性が高く，顧客企業固有の情報を収集しても結局利用されない可能性が高いため，融資市場の競争激化は銀行による情報生産を阻害するとの仮説がある．その一方で，競争相手が多くなっても一定の利ザヤを確保するために，銀行はむしろ顧客固有の情報を排他的に収集・活用する誘因を持つことを示した理論モデルも提示されている．このように融資市場の競争度の影響に関しては，理論モデルのみから結論を得るのは不可能であり，データを用いた実証が要請されている.

このような理論モデルによる分析を踏まえて，本研究では，以下の３つの問いについて，日本あるいは米国のデータを用いた計量分析による検証を試みた.

(1) 融資市場の競争増加は，各銀行のリレーションシップバンキングを通じた情報生産活動に対して正の効果を持つのか，負の効果を持つのか.

(2) 融資市場の競争増加は，比較的若い企業など新規先への資金アヴェイラビリティを向上させるのか，低下させるのか.

(3) 融資市場の競争増加は，銀行部門の安定性（つまり各銀行の財務健全性）を向上させるのか，低下させるのか.

３．研究の方法

2001-2003 年に中小企業庁より実施された「中小企業金融実態調査」を始めとする中小企業金融に関する企業向けアンケート調査の個票データと，日本金融年鑑から収集・計算した各都道府県の融資市場の競争度に関するデータ（県内に少なくとも１つの支店を持つ銀行・信用金庫の数，各銀行・信用金庫の店舗数のハーフィンダール指数）を接続したデータを用いて，以下のような統計分析を行った.

(1) 競争度がリレーションシップバンキングに与える影響を調べるために，リレーションシップバンキングのメジャー（具体的には，融資担当者による訪問頻度，融資担当者による財務診断等の経営アドバイスの有無，あるいは取引先紹介の有無）を被説明変数，各都道府県の競争度とその他のコントロールするべき企業や金融機関の属性を説明変数とする回帰分析，あるいはロジット分析を行った.

(2) リレーションシップバンキングが創業後まもなくの企業の融資利用可能性に与える影響を調べるために，創業後初めて融資を受けるまでの期間を被説明変数，事後的なリレーションシップバンキングのメジャーとその他のコントロールすべき企業，創業者，市場の属性を説明変数とする censored regression あるいは，Cox 部分最尤法によるデュレーション分析を行った.

(3) 米国の中小企業を対象に 2004－5 年に実施されたアンケート調査 National Survey of Small Business Financing (2003) の個票データ（Federal Reserve Bank が公表）を用いて，銀行市場の競争度とメインバンクによる排他的情報生産の関係に関する実証分析を行った．もしメインバンクが排他的情報生産を行っているのであれば，参入したからそれほど時間の経っていない若い企業についてのみ，メインバンクの提供する融資の約定金利がそれ以外の銀行の約定金利より低いとの理論的予見に基づいて，このような金利差が，銀行市場の競争度とどのような相関を持つかを，回帰分析や propensity score

matching 法などの統計的手法を用いて検証した.

(4) 90 年代後半以降に相次いだ金融機関合併が競争度あるいは金融機関の規模拡大を通して情報生産やリレーションシップバンキングに与えた影響を調べるために，経済産業研究所が 2005 年に実施した「関西地域における企業金融に関する企業意識調査」の個票データを用いて，メインバンクの合併を経験した企業と，そうでない企業との間で，メインバンクの個別企業情報の習熟度に関する評価に差があることを検証した．具体的には，アンケートの中で習熟度が５段階評価で評価されているため，習熟度評価を被説明変数，メインバンクが過去４年間に合併を経験した場合に１となり，それ以外の場合には０となるようなダミー変数を説明変数とする順序ロジットによる分析を行った.

４．研究成果

融資市場の集中度とリレーションシップバンキングの頻度，および新規参入企業の融資利用可能性に関しては，以下のような実証結果を得た.

(1)　競合する金融機関数が多く，集中度が低い地域ほど，リレーションシップバンキング（継続的取引関係を通して個別顧客情報を蓄積・活用する銀行行動）が行われにくい傾向が明らかとなった．この結果は，金融機関の規模，公的信用保証による保証割合，企業の財務状態等を全てコントロールした上で得られたものである．ちなみに，金融機関の規模が小さいほど，公的信用保証の保証割合が低いほど，また，中小企業の中でも比較的規模の大きい企業ほど，リレーションシップバンキングが提供される可能性が高いことが明らかとなった．なお，因果関係については厳密な調査が必要であるが，不良債権比率とリレーションシップバンキングの頻度の間に負の相関があることが示された.

(2)　上記のようなリレーションシップバンキングが提供される可能性が高い融資市場で，創業まもない企業が融資を受けられる可能性が高いことが明らかとなった．これは，地域の経済成長率，経営者の創業時の資産保有状況，業界経験年数などをコントロールした上で得られた結果である.

(3)　研究の方法(3)で述べたような統計分析を行ったところ，郡レベルの銀行預金市場のハーフィンダール指数が 1800 以上であるような非競争的な市場でのみ，若い企業に関するメインバンクと非メインバンクの間の約定金利差が統計的に有意に観察された．この結果は，日本と同様に米国でも銀行間競争の激化が排他的情報生産を阻害する傾向を持つことを示唆している.

以上，(1)-(3)の結果は，総じて融資市場の競争度が低いほど，リレーションシップバンキングが提供される可能性が高く，結果としてそのような融資市場では，創業後の比較的に早い時期に融資を受けやすい傾向を示している．この結果は，既存の国内外の文献の一部で主張されているように融資市場の競争度を高めることが，融資利用可能性の向上，金融機関の財務健全性の向上の寄与する，とは必ずしも言えないことを示唆している．もっとも，競争度の上昇が経済全体の厚生に与える影響については，さらなる分析が必要である.

(4) 金融機関が合併した場合，特に合併に伴う規模拡大の度合が大きいほど，金融機関の保有する個別企業情報が減少する傾向が，統計的に明らかとなった.

(1)の付随的結果と(4)の結果は金融機関の組織構造の複雑化，あるいは規模拡大が，金融機関による情報生産・リレーションシップバンキングの提供を阻害する傾向を示唆している．金融機関合併の情報生産，及び経済効率性に与える影響に関して，国内外の研究でこれまで明確にされてこなかった事実に関する新たな情報を提供している.

以上(1)－(4)の結果は,銀行間競争の低下がリレーションシップバンキングの提供を促進し，新規参入企業の融資可能性あるいは借入金利低下に寄与するが，それが合併などのように金融機関の規模拡大を伴う形でもたらされた場合には，これらの効果が打ち消されてしまうことを示している.

５．主な発表論文等
（研究代表者，研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　1　件）

小倉義明・内田浩史　「金融機関の経営統合とソフトな情報の毀損」,『経済研究』, 第 59 巻 2 号, 153-163 頁, 2008 年 4 月, 査読有.

〔ワーキングペーパー〕（計　3　件）

Ogura, Y., “Lending Competition, Relationship Banking, and Credit Availability for Entrepreneurs,” *RIETI Discussion Paper Series* 07E036, July 2007, 査読無.

Ogura, Y., and Uchida, H., “Bank Consolidation and Soft Information Acquisition in Small

Business Lending," *RIETI Discussion Paper Series* 07E037, July 2007, 査読無.

Ogura, Y., "Endogenous relationship banking to alleviate excessive screening in transaction banking," Discussion Paper Series A, No.487, Institute of Economic Research, Hitotsubashi University, December 2006, 査読無.

〔学会発表〕(計　5　件)

Ogura, Y., "Lending Competition, Relationship Banking, and Credit Availability for Entrepreneurs," Financial Intermediation Research Society, Biannual Conference on Banking, Corporate Finance, and Intermediation, Anchorage, AK, USA, June 7, 2008.

Ogura, Y., and Uchida, H., "Bank Consolidation and Soft Information Acquisition in Small Business Lending," 日本金融学会秋季大会, 京都, 2007年9月9日.

Ogura, Y., and Uchida, H., "Bank Consolidation and Soft Information Acquisition in Small Business Lending," The Conference on the Mergers & Acquisitions of Financial Institutions, FDIC, FRB Chicago, University of Kansas, *Journal of Financial Service Research*, at the FDIC L.William Seidman Center, Arlington, VA, USA, November 30, 2007.

Ogura, Y., "Lending Competition, Relationship Banking, and Credit Availability for Entrepreneurs," 日本経済学会春季大会, 大阪, 2007年6月3日.

Ogura, Y., "Does lending competition promote relationship banking? Evidence from the US small business financing data," The 30th Anniversary of the *Journal of Banking and Finance* Conference, Beijing, China, June 7, 2006.

〔図書〕(計　1　件)

小倉義明「地域金融市場の競争度と新規参入企業の融資利用可能性：リレーションシップバンキングの観点から」, 筒井義郎/植村修一編著　『リレーションシップバンキングと地域金融』日本経済新聞出版社, 第3章, 81-100頁, 2007年, 査読無.

６．研究組織

(1)研究代表者
小倉義明 (Ogura Yoshiaki)
立命館大学・経営学部・准教授
研究者番号：70423043

(2)研究分担者

(3)連携研究者